

# 土づくりの実践による「空知型輪作」の確立

～ 何でも穫れる汎用田を目指して ～

対象：岩見沢市・美唄市・三笠市・月形町

## 1 活動の背景

当地区は道内有数の「米どころ」で、地目の約90%が水田である。米価下落の影響や農業政策への対応により、転作率は60%まで上昇している。近年は、小麦類、大豆、たまねぎなどの作付が拡大しており、秋まき小麦や大豆は、連作が常態化し生産性が不安定となっていた。

このため、各作物の生産性向上のプロジェクトを立ち上げ活動してきたが、“土づくり”の重要性を再認識する結果となり、取り組みに対する気運が高まっていた。

## 2 活動の経過

活動年次 平成27年～令和1年

(1) 土壌物理性改善プロジェクトチームの活動

①「透排水性改善」②「有機物導入」③「空知型輪作推進」を3本柱に活動を進めた(図1)。

(2) 農業者ニーズの把握

関係機関と連携し事前アンケート調査を行った。

(3) 農業者の取り組み効果確認

先進的農業者が取り組んでいる透排水性改善・有機物導入・空知型輪作について調査を行った(写真1)。

(4) 展示ほの設置

関係機関と連携し、透排水性改善や有機物導入の展示ほを設置した。

(5) 経営シミュレーション

営農ナビHokkaido岩見沢版を用い経営シミュレーションを行った。

(6) 情報発信

「土壌物理性改善のススメ」を作成発行した(写真2)。

(7) 農業者変化の把握

関係機関と連携し、事後アンケート調査を行い、農業者の変化を把握した。

## 3 成果の具体的内容

(1) チーム活動

担当・専門の枠を越えたチーム活動により、情報共有や発信がスムーズに進んだ。

(2) 農業者ニーズの把握

アンケートで関係機関や農業者と地域ニーズを確認でき、意思統一を図ることができた(図2)。

目標:何でも穫れる「汎用田」					
(汎用田=気象変動に耐えられる水はけの良い畑)					
チーム	平成27	平成28	平成29	平成30	主な活動内容
透排水性改善チーム	2ヵ年				○機械の有効活用方法の提案 ・手持ち機械の有効活用事例 ・排水対策の効果確認
有機物導入チーム	3ヵ年				○たい肥緑肥の導入提案 ・緑肥利用の効果確認 ・たい肥の効果実証
空知型輪作チーム	3ヵ年				○輪作への不安疑問の解消 ・輪作作物の導入効果検証 ・先達優良事例収集

図1 プロジェクトの活動内容



写真1 先進的農業者の取り組み調査



写真2 冊子「土壌物理性改善のススメ」

### (3) 農業者の取り組みの効果確認

先進的農業者の取り組みを数値化・解析することで、農業者も自信を持って地域に取り組みを波及することができている。

### (4) 展示ほの設置

技術の有効性を確認できた機械が、農協リースに加わった。

### (5) 経営シミュレーション

輪作することが経営に良い影響をあたえると営農ナビを用いて示した。

### (6) 情報発信

結果を速やかに発信することで、農業者の反応を把握することもでき、活動の計画や修正に繋げることができた。

### ○畑作物生産の問題は？

作付面積	1位	2位	3位
41ha以上	連作	雑草対策	ほ場の透排水性不良
31~40ha	連作	雑草対策	有機物不足
21~30ha	連作	雑草対策	ほ場の透排水性不良
11~20ha	連作	雑草対策	ほ場の透排水性不良
10ha以下	連作	雑草対策	有機物不足

### ○輪作への不安・疑問、していない理由は？

順位	不安・疑問・していない理由	割合
1位	新規作物の情報不足	19%
2位	水田を主体とした経営なので	19%
3位	復田への不安	17%
4位	その他（土地不足や作業の競合）	11%
5位	粘土地だから	8%

図2 地域の農業者ニーズ把握

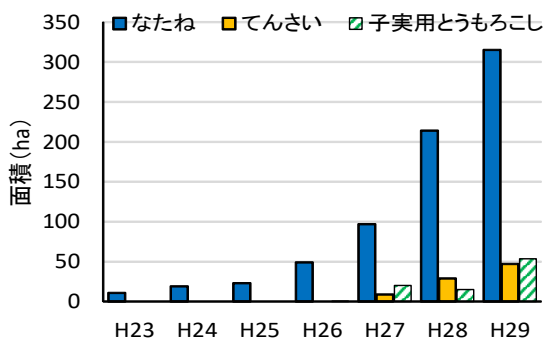


図3 地域の変化  
(新規作物の作付面積推移)

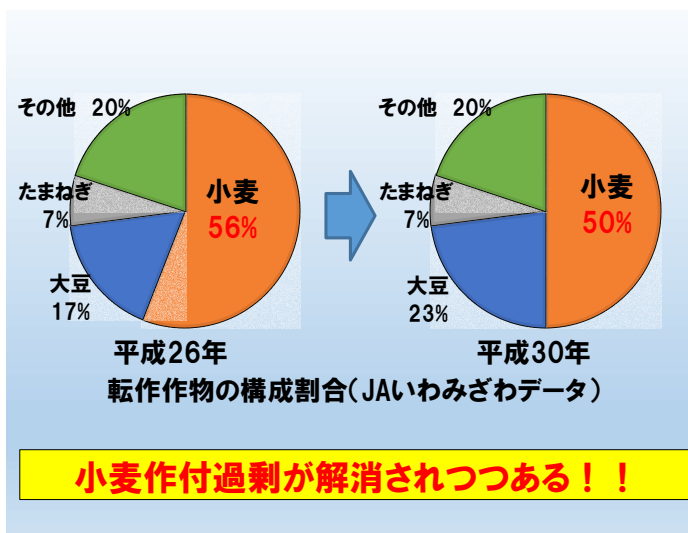


図4 地域の変化 (転作作物の構成割合)

## 4 今後の課題と対応

- (1) 「空知型輪作の推進」「透排水性改善」「有機物の導入」の継続的推進。
- (2) データや情報の積極的な発信。
- (3) 関係機関主催研修会の講師や原稿執筆。
- (4) 機械の新規導入検討に関わる効果実証。
- (5) 視察依頼などへの柔軟な対応。
- (6) 土壌物理性改善に関する調査依頼に対応。
- (7) 事後アンケート調査について関係機関との情報共有と今後の活用。



写真3 数値化により農業者も普及指導員も自信を持って取り組みを普及